農林水産統計 Statistics of Agriculture, Forestry and Fisheries

農林水産省
関東農政局
令和３年11月９日公表

作物統計調査
令和３年産水稲の作付面積及び10月25日現在の予想収穫量（管内）

－　予想収穫量（主食用）は138万6,000ｔの見込み　－

【調査結果の概要】

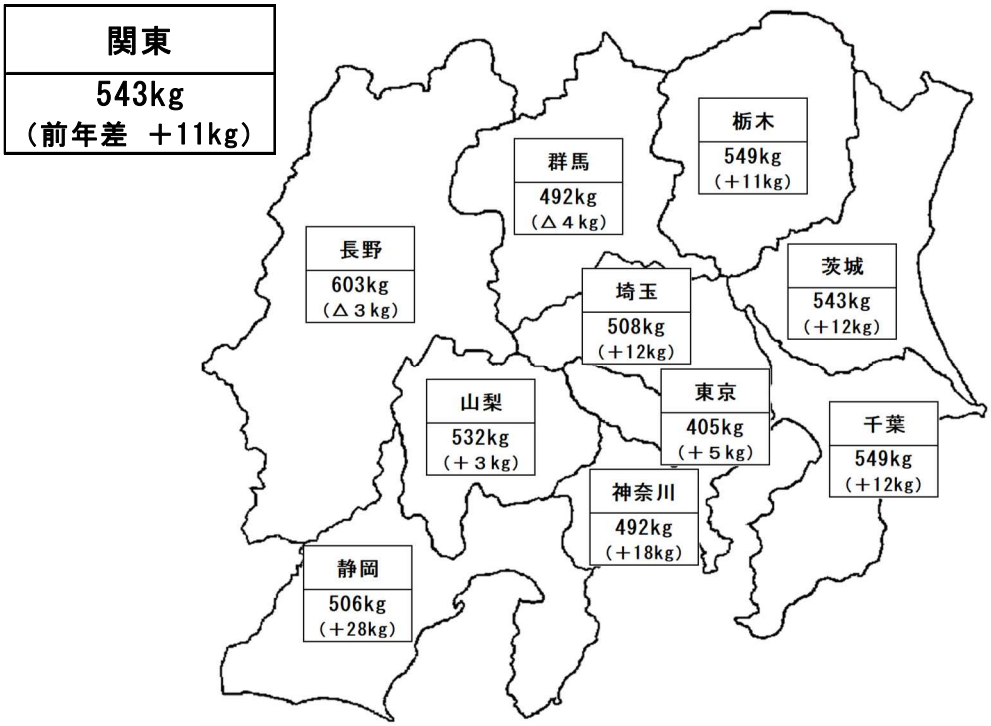
1　令和３年産水稲の作付面積（子実用）は26万8,400haで、前年産に比べ1万6,700ha減少した。うち主食用作付面積は25万5,200haで、前年産に比べ１万6,000ha減少した。

2　管内の10ａ当たり予想収量は543kgで、前年産に比べ11kgの増加が見込まれる。

3　以上の結果、予想収穫量（子実用）は145万7,000ｔで、前年産に比べ６万1,000ｔの減少が見込まれる。このうち、主食用の予想収穫量は138万6,000ｔで、前年産に比べ５万8,000ｔの減少が見込まれる。

4　なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの管内の作況指数は101となる見込み。

図１　都県別の10ａ当たり予想収量（10月25日現在）



○　作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
○　主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
○　10ａ当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
○　本調査は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行ったが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

本資料は、関東農政局ホームページ「統計情報」の次のＵＲＬから御覧いただけます。
【 https://www.maff.go.jp/kanto/to_jyo/ 】

◎　水稲調査結果の主な利活用

・　主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（平成６年法律第 113 号）に基づき毎年定めることとされている米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針及び米穀の需給見通しのための資料

・　食料・農業・農村基本計画における生産努力目標の策定及び達成状況検証のための資料

・　米・畑作物の収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）の交付金算定のための資料

・　農業保険法（昭和 22 年法律第 185 号）に基づく農作物共済事業の適切な運営のための資料

◎　累年データ

水稲（子実用）の年次別推移

１　管内

年　産	作付面積（子実用）	10ａ当たり収　量	収　穫　量（子実用）	主食用作付面積	収穫量（主食用）	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成23年産	312,900	534	1,670,000	306,900	1,639,000	100
24	312,600	542	1,693,000	305,000	1,652,000	102
25	315,900	546	1,724,000	304,100	1,659,000	102
26	309,600	543	1,681,000	296,400	1,610,000	102
27	291,400	525	1,529,000	280,300	1,471,000	98
28	286,500	541	1,549,000	275,700	1,490,000	101
29	284,200	532	1,512,000	273,000	1,453,000	99
30	286,100	537	1,537,000	275,000	1,477,000	100
令和元	286,700	521	1,495,000	273,900	1,429,000	97
2	285,100	532	1,518,000	271,200	1,444,000	100
３（見込み）	**268,400**	**543**	**1,457,000**	**255,200**	**1,386,000**	**101**

資料：農林水産省統計部『作物統計』
注：１　作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である（以下同じ。）。
２　10ａ当たり収量及び収穫量は、1.70㎜のふるい目幅で選別された玄米の重量である（以下同じ。）。
３　主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である（以下同じ。）。
４　作況指数は、平成26年産以前は1.70㎜のふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までは、管内で、過去５か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて９割を占めるまでの目幅(1.80㎜)以上に選別された玄米を基に算出していた。令和２年産以降は、都県ごとに、過去５か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（茨城県、栃木県及び長野県は1.85㎜、その他都県は1.80㎜）以上に選別された玄米を基に算出した数値である（以下同じ。）。

２　茨城県

年　産	作付面積（子実用）	10ａ当たり収　量	収　穫　量（子実用）	主食用作付面積	収穫量（主食用）	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成23年産	75,500	521	393,400	74,600	388,700	100
24	75,800	540	409,300	74,000	399,600	103
25	75,900	542	411,400	73,600	398,900	104
26	74,700	548	409,400	72,300	396,200	105
27	70,300	505	355,000	68,400	345,400	96
28	69,300	521	361,100	67,200	350,100	99
29	68,100	525	357,500	66,400	348,600	99
30	68,400	524	358,400	66,800	350,000	99
令和元	68,300	504	344,200	66,400	334,700	96
2	67,800	531	360,000	65,500	347,800	103
３（見込み）	**63,500**	**543**	**344,800**	**61,400**	**333,400**	**103**

水稲（子実用）の年次別推移（続き）

3　栃木県

年　産	作付面積（子実用）	10ａ当たり収　量	収　穫　量（子実用）	主食用作付面積	収穫量（主食用）	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成23年産	64,000	547	350,100	61,400	335,900	101
24	63,200	544	343,800	60,900	331,300	101
25	66,200	549	363,400	61,000	334,900	102
26	63,900	538	343,800	58,300	313,700	100
27	58,300	531	309,600	54,100	287,300	98
28	57,400	551	316,300	53,600	295,300	102
29	57,600	510	293,800	53,600	273,400	93
30	58,500	550	321,800	54,700	300,900	102
令和元	59,200	526	311,400	54,900	288,800	97
2	59,200	538	318,500	54,900	295,400	101
3（見込み）	**54,800**	**549**	**300,900**	**50,600**	**277,800**	**101**

4　群馬県

年　産	作付面積（子実用）	10ａ当たり収　量	収　穫　量（子実用）	主食用作付面積	収穫量（主食用）	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成23年産	17,600	501	88,200	16,800	84,200	101
24	17,800	508	90,400	16,800	85,300	103
25	17,600	509	89,600	16,500	84,000	103
26	17,300	500	86,500	15,900	79,500	101
27	15,800	489	77,300	14,400	70,400	98
28	15,400	505	77,800	14,100	71,200	102
29	15,500	499	77,300	13,900	69,400	101
30	15,600	506	78,900	13,700	69,300	102
令和元	15,500	486	75,300	13,600	66,100	98
2	15,500	496	76,900	13,600	67,500	100
3（見込み）	**14,900**	**492**	**73,300**	**13,000**	**64,000**	**99**

5　埼玉県

年　産	作付面積（子実用）	10ａ当たり収　量	収　穫　量（子実用）	主食用作付面積	収穫量（主食用）	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成23年産	35,200	485	170,700	34,900	169,300	98
24	35,300	486	171,600	34,700	168,600	99
25	35,400	481	170,300	34,500	165,900	98
26	34,400	501	172,300	33,900	169,800	102
27	32,200	480	154,600	31,700	152,200	97
28	31,700	494	156,600	31,200	154,100	101
29	31,600	494	156,100	30,700	151,700	101
30	31,900	487	155,400	30,800	150,000	99
令和元	32,000	482	154,200	30,900	148,900	98
2	31,900	496	158,200	30,600	151,800	102
3（見込み）	**30,000**	**508**	**152,400**	**28,800**	**146,300**	**103**

水稲（子実用）の年次別推移（続き）

6　千葉県

年　産	作付面積（子実用）	10ａ当たり収　量	収　穫　量（子実用）	主食用作付面積	収穫量（主食用）	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成23年産	60,400	533	321,900	59,800	318,700	100
24	60,500	552	334,000	59,500	328,400	104
25	60,900	554	337,400	59,400	329,100	104
26	60,200	558	335,900	58,300	325,300	104
27	57,000	539	307,200	55,200	297,500	101
28	55,700	549	305,800	53,900	295,900	102
29	55,200	543	299,700	53,300	289,400	100
30	55,600	542	301,400	53,900	292,100	99
令和元	56,000	516	289,000	53,700	277,100	95
2	55,400	537	297,500	52,500	281,900	99
3（見込み）	**50,600**	**549**	**277,800**	**48,100**	**264,100**	**101**

7　東京都

年　産	作付面積（子実用）	10ａ当たり収　量	収　穫　量（子実用）	主食用作付面積	収穫量（主食用）	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成23年産	165	424	700	165	700	103
24	161	416	670	161	670	101
25	161	415	668	161	668	101
26	159	416	661	159	661	101
27	156	405	632	156	632	98
28	151	415	627	151	627	101
29	141	411	580	141	580	99
30	133	417	555	133	555	101
令和元	129	402	519	129	519	97
2	124	400	496	124	496	98
3（見込み）	**120**	**405**	**486**	**120**	**486**	**98**

8　神奈川県

年　産	作付面積（子実用）	10ａ当たり収　量	収　穫　量（子実用）	主食用作付面積	収穫量（主食用）	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成23年産	3,220	511	16,500	3,210	16,400	104
24	3,210	493	15,800	3,210	15,800	100
25	3,150	495	15,600	3,150	15,600	100
26	3,140	500	15,700	3,140	15,700	101
27	3,130	485	15,200	3,130	15,200	96
28	3,120	495	15,400	3,110	15,400	101
29	3,090	509	15,700	3,090	15,700	102
30	3,080	492	15,200	3,080	15,200	98
令和元	3,040	470	14,300	3,040	14,300	95
2	2,990	474	14,200	2,990	14,200	97
3（見込み）	**2,920**	**492**	**14,400**	**2,920**	**14,400**	**99**

水稲（子実用）の年次別推移（続き）

9　山梨県

年　産	作付面積（子実用）	10ａ当たり収　量	収　穫　量（子実用）	主食用作付面積	収穫量（主食用）	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成23年産	5,290	545	28,800	5,260	28,700	100
24	5,280	542	28,600	5,230	28,300	99
25	5,260	551	29,000	5,210	28,700	101
26	5,090	547	27,800	5,040	27,600	100
27	5,030	539	27,100	4,980	26,800	98
28	4,990	547	27,300	4,940	27,000	101
29	4,960	549	27,200	4,880	26,800	100
30	4,900	542	26,600	4,820	26,100	99
令和元	4,890	541	26,500	4,810	26,000	99
2	4,880	529	25,800	4,800	25,400	97
3（見込み）	**4,850**	**532**	**25,800**	**4,760**	**25,300**	**97**

10　長野県

年　産	作付面積（子実用）	10ａ当たり収　量	収　穫　量（子実用）	主食用作付面積	収穫量（主食用）	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成23年産	34,200	604	206,600	33,700	203,500	97
24	34,200	610	208,600	33,600	205,000	98
25	34,400	632	217,400	33,700	213,000	101
26	33,900	597	202,400	32,800	195,800	96
27	33,200	604	200,500	32,200	194,500	97
28	32,700	624	204,000	31,700	197,800	101
29	32,300	629	203,200	31,300	196,900	101
30	32,200	618	199,000	31,300	193,400	100
令和元	32,000	620	198,400	30,900	191,600	100
2	31,800	606	192,700	30,700	186,000	99
3（見込み）	**31,500**	**603**	**189,900**	**30,400**	**183,300**	**97**

11　静岡県

年　産	作付面積（子実用）	10ａ当たり収　量	収　穫　量（子実用）	主食用作付面積	収穫量（主食用）	作況指数
	ha	kg	t	ha	t	
平成23年産	17,200	539	92,700	17,200	92,700	103
24	17,100	525	89,800	17,000	89,300	101
25	17,100	521	89,100	16,900	88,000	100
26	16,800	514	86,400	16,600	85,300	99
27	16,300	503	82,000	16,100	81,000	96
28	16,000	525	84,000	15,800	83,000	101
29	15,700	515	80,900	15,600	80,300	99
30	15,800	506	79,900	15,700	79,400	97
令和元	15,700	517	81,200	15,600	80,700	99
2	15,500	478	74,100	15,400	73,600	92
3（見込み）	**15,300**	**506**	**77,400**	**15,200**	**76,900**	**97**

水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況、10ａ当たり収量及び収穫量（子実用）

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量（未熟粒・被害粒等の混入が多く農産物規格規程に定める三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいる。）としている（17ページ【参考１】参照）。

農家等が販売するために使用しているふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、参考として刈取り済みの地域について、ふるい目幅別の重量割合の概数値並びにふるい目幅別10ａ当たり収量及び収穫量（子実用）の概数値を示すと次のとおりである。

表１　ふるい目幅別重量分布状況の推移（管内）

単位：%

年　産	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以　上
平成28年産	100.0	0.8	1.3	1.9	2.8	17.4	75.8
29	100.0	1.1	1.7	2.6	3.8	22.5	68.3
30	100.0	1.1	1.7	2.5	3.7	20.2	70.8
令和元	100.0	0.8	1.3	1.9	3.0	18.2	74.8
2	100.0	0.6	1.0	1.5	2.5	16.1	78.3
３（概数値）	**100.0**	**1.0**	**1.6**	**2.1**	**3.4**	**17.9**	**74.0**
平 均 値	100.0	0.9	1.4	2.1	3.2	18.9	73.5
対平均差（ﾎﾟｲﾝﾄ）	0.0	0.1	0.2	0.0	0.2	△ 1.0	0.5

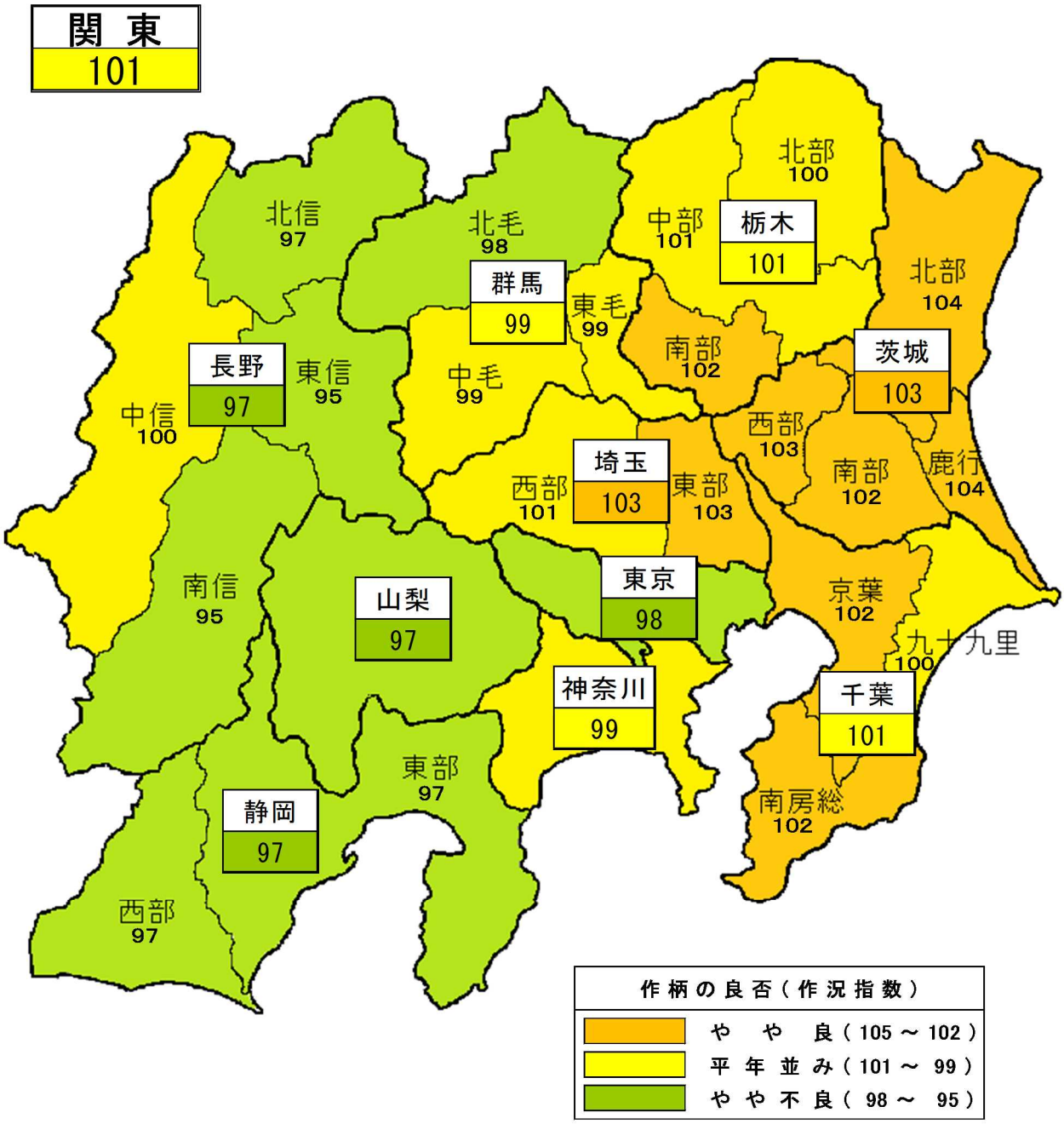
注：平均値は、直近５か年の重量割合の平均である。

表２　ふるい目幅別10ａ当たり収量及び収穫量（子実用）の推移（管内）

年　産		単位	1.70mm 以　上	1.75mm 以　上	1.80mm 以　上	1.85mm 以　上	1.90mm 以　上	2.00mm 以　上
平成28年産	10ａ当たり収量	kg	541	537	530	519	504	410
	収穫量	t	1,549,000	1,537,000	1,516,000	1,487,000	1,444,000	1,174,000
29	10ａ当たり収量	kg	532	526	517	503	483	363
	収穫量	t	1,512,000	1,495,000	1,470,000	1,430,000	1,373,000	1,033,000
30	10ａ当たり収量	kg	537	531	523	509	489	380
	収穫量	t	1,537,000	1,520,000	1,495,000	1,456,000	1,399,000	1,088,000
令和元	10ａ当たり収量	kg	521	517	510	500	485	390
	収穫量	t	1,495,000	1,483,000	1,464,000	1,435,000	1,390,000	1,118,000
2	10ａ当たり収量	kg	532	529	523	516	502	417
	収穫量	t	1,518,000	1,509,000	1,494,000	1,471,000	1,433,000	1,189,000
３（概数値）	**10ａ当たり収量**	kg	**543**	**538**	**529**	**517**	**499**	**402**
	収穫量	t	**1,457,000**	**1,442,000**	**1,419,000**	**1,389,000**	**1,339,000**	**1,078,000**
	対　前　年　比	%	96	96	95	94	93	91

注：１　ふるい目幅別の10ａ当たり収量とは、管内の10ａ当たり予想収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。
２　ふるい目幅別の収穫量（子実用）とは、管内の予想収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

図２　管内の作柄表示地帯別作況指数（10月25日現在）



注：　作況指数は、10ａ当たり平年収量に対する10ａ当たり収量の比率であり、都県ごとに、過去５か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（茨城県、栃木県及び長野県は1.85㎜、その他都県は1.80㎜）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

【調査結果】

1　令和３年産水稲の作付面積（子実用）は26万8,400ha（前年産に比べ１万6,700ha減少）となった。
　また、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた主食用作付面積は25万5,200ha（前年産に比べ１万6,000ha減少）となった（表３参照）。

2　水稲の管内における10ａ当たり予想収量は543kg（前年産に比べ11kg増加）が見込まれる。（表３参照）。

3　都県別の10ａ当たり予想収量は、茨城県は543kg（前年産に比べ12kg増加）、栃木県は549kg（同11kg増加）、群馬県は492kg（同４kg減少）、埼玉県は508kg（同12kg増加）、千葉県は549kg（同12kg増加）、東京都は405kg（同５kg増加）、神奈川県は492kg（同18kg増加）、山梨県は532kg（同３kg増加）、長野県は603kg（同３kg減少）、静岡県は506kg（同28kg増加）が見込まれる（表３参照）。

4　以上の結果、予想収穫量（子実用）は145万7,000ｔ（前年産に比べ６万1,000ｔ減少）が見込まれる。このうち、主食用作付面積に10ａ当たり予想収量を乗じた予想収穫量（主食用）は138万6,000ｔ（前年産に比べ５万8,000ｔ減少）が見込まれる（表３参照）。

5　なお、農家等が使用しているふるい目幅ベースの管内における作況指数は101が見込まれる（表３参照）。
　これは、６月下旬から７月下旬が高温･多照に推移しもみ数が多くなったことによって、平年並み以上の県が多かったためである。

6　ふるい目幅別重量分布状況は、管内平均の1.85㎜以上の玄米の重量割合は95.3%が見込まれ、直近５か年平均値に比べ0.3ポイント低くなっている（表４参照）。

7　玄米品位の状況は、管内における整粒の割合が66.7%と見込まれ、前年産に比べ1.6ポイント高くなっている（表８参照）。

表３　令和３年産水稲の作付面積及び予想収穫量（10月25日現在）

区分	作付面積（子実用）			10ａ当たり予想収量		予想収穫量（子実用）			主食用作付面積	予想収穫量（主食用）	作況指数
	実数	前年産との比較		実数	前年産との比較	実数	前年産との比較				
	①	対差	対比	②	対差	③＝①×②	対差	対比	④	⑤＝④×②	
	ha	ha	%	kg	kg	t	t	%	ha	t	
管内	268,400	△ 16,700	94	543	11	1,457,000	△ 61,000	96	255,200	1,386,000	101
茨城	63,500	△ 4,300	94	543	12	344,800	△ 15,200	96	61,400	333,400	103
栃木	54,800	△ 4,400	93	549	11	300,900	△ 17,600	94	50,600	277,800	101
群馬	14,900	△ 600	96	492	△ 4	73,300	△ 3,600	95	13,000	64,000	99
埼玉	30,000	△ 1,900	94	508	12	152,400	△ 5,800	96	28,800	146,300	103
千葉	50,600	△ 4,800	91	549	12	277,800	△ 19,700	93	48,100	264,100	101
東京	120	△ 4	97	405	5	486	△ 10	98	120	486	98
神奈川	2,920	△ 70	98	492	18	14,400	200	101	2,920	14,400	99
山梨	4,850	△ 30	99	532	3	25,800	0	100	4,760	25,300	97
長野	31,500	△ 300	99	603	△ 3	189,900	△ 2,800	99	30,400	183,300	97
静岡	15,300	△ 200	99	506	28	77,400	3,300	104	15,200	76,900	97

注：1　10ａ当たり予想収量及び予想収穫量は、1.70㎜のふるい目幅で選別された玄米の重量である。
　2　作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む）を除いた面積である。
　3　主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
　4　予想収穫量（子実用）及び予想収穫量（主食用）については都県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
　5　作況指数は、10ａ当たり平年収量に対する10ａ当たり収量の比率であり、都県ごとに、過去５か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（茨城県、栃木県及び長野県は1.85㎜、その他都県は1.80㎜）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

表４　令和３年産水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況（10月25日現在）

区　分	ふるい目幅別重量分布状況						
	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以　上
	%	%	%	%	%	%	%
管　内	**100.0**	**1.0**	**1.6**	**2.1**	**3.4**	**17.9**	**74.0**
茨　城	**100.0**	**1.0**	**1.4**	**1.7**	**3.0**	**15.8**	**77.1**
北　部	100.0	0.9	1.3	1.4	2.5	13.0	80.9
鹿　行	100.0	1.0	1.6	1.9	3.6	20.1	71.8
南　部	100.0	1.0	1.5	1.8	3.2	17.1	75.4
西　部	100.0	1.0	1.4	1.6	2.9	15.0	78.1
栃　木	**100.0**	**1.1**	**1.7**	**2.5**	**3.5**	**21.9**	**69.3**
北　部	100.0	1.0	1.5	2.2	3.2	21.1	71.0
中　部	100.0	1.0	1.6	2.3	3.2	20.7	71.2
南　部	100.0	1.4	2.1	3.3	4.5	25.6	63.1
群　馬	**…**	**…**	**…**	**…**	**…**	**…**	**…**
中　毛	…	…	…	…	…	…	…
北　毛	…	…	…	…	…	…	…
東　毛	…	…	…	…	…	…	…
埼　玉	**100.0**	**1.6**	**2.2**	**3.2**	**4.7**	**24.4**	**63.9**
東　部	100.0	1.4	2.0	2.9	4.4	23.9	65.4
西　部	100.0	2.0	2.6	3.7	5.4	25.4	60.9
千　葉	**100.0**	**0.7**	**1.1**	**1.5**	**2.6**	**14.4**	**79.7**
京　葉	100.0	0.7	1.1	1.5	2.7	16.2	77.8
九十九里	100.0	0.7	1.1	1.5	2.4	13.4	80.9
南房総	100.0	0.9	1.3	1.6	2.8	15.0	78.4
東　京	**100.0**	**2.3**	**3.5**	**4.8**	**6.0**	**24.7**	**58.7**
神奈川	**100.0**	**1.5**	**2.9**	**3.3**	**4.9**	**22.7**	**64.7**
山　梨	**100.0**	**1.2**	**1.9**	**2.1**	**3.7**	**16.8**	**74.3**
長　野	**100.0**	**0.9**	**1.6**	**1.5**	**3.0**	**14.5**	**78.5**
東　信	100.0	0.9	1.5	1.5	3.8	16.8	75.5
南　信	100.0	0.9	1.5	1.4	2.5	12.3	81.4
中　信	100.0	1.0	1.6	1.5	2.7	13.0	80.2
北　信	100.0	0.9	1.6	1.6	3.2	17.7	75.0
静　岡	**100.0**	**0.8**	**1.3**	**1.5**	**2.8**	**13.6**	**80.0**
東　部	100.0	0.8	1.2	1.4	2.6	12.7	81.3
西　部	100.0	0.8	1.3	1.5	2.9	14.4	79.1

注：１　ふるい目幅別重量分布状況は、10月25日現在までに刈取り・調製が終了した作況標本筆等のデータにより取りまとめたものであり、次回公表において数値が変動することがある（以下同じ。）。

２　10月25日現在で、各都県において設置された作況標本筆等のおおむね80％以上でデータが得られた都県について調査結果を表章しており、それに満たない群馬県については「…」で示した（以下同じ。）。

表４　令和３年産水稲玄米のふるい目幅別重量分布状況（10月25日現在）（続き）

区　分	対平均差						
	計	1.70mm以上 1.75mm未満	1.75 ～1.80	1.80 ～1.85	1.85 ～1.90	1.90 ～2.00	2.00mm 以　上
	ポイント	ポイント	ポイント	ポイント	ポイント	ポイント	ポイント
管　内	**0.0**	**0.1**	**0.2**	**0.0**	**0.2**	**△ 1.0**	**0.5**
茨　城	**0.0**	**0.1**	**△ 0.1**	**0.0**	**△ 0.2**	**△ 3.1**	**3.3**
北　部	0.0	0.1	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.4	△ 3.6	4.1
鹿　行	0.0	0.2	0.0	0.1	0.0	△ 1.4	1.1
南　部	0.0	0.1	△ 0.1	0.0	△ 0.2	△ 2.9	3.1
西　部	0.0	0.2	0.0	△ 0.1	△ 0.2	△ 3.6	3.7
栃　木	**0.0**	**0.2**	**0.3**	**0.1**	**0.4**	**0.5**	**△ 1.5**
北　部	0.0	0.2	0.3	0.3	0.4	1.7	△ 2.9
中　部	0.0	0.0	0.2	△ 0.2	△ 0.1	△ 1.7	1.8
南　部	0.0	0.2	0.4	0.3	0.8	1.7	△ 3.4
群　馬	**…**	**…**	**…**	**…**	**…**	**…**	**…**
中　毛	…	…	…	…	…	…	…
北　毛	…	…	…	…	…	…	…
東　毛	…	…	…	…	…	…	…
埼　玉	**0.0**	**0.5**	**0.5**	**0.5**	**0.4**	**△ 1.1**	**△ 0.8**
東　部	0.0	0.4	0.3	0.2	0.1	△ 2.6	1.6
西　部	0.0	0.8	0.8	0.9	1.2	2.1	△ 5.8
千　葉	**0.0**	**△ 0.2**	**△ 0.2**	**△ 0.5**	**△ 0.2**	**△ 2.6**	**3.7**
京　葉	0.0	△ 0.3	△ 0.3	△ 0.9	△ 0.6	△ 4.3	6.4
九十九里	0.0	△ 0.2	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.1	△ 1.8	2.5
南房総	0.0	0.0	0.0	△ 0.5	0.0	△ 2.0	2.5
東　京	**0.0**	**1.5**	**2.1**	**2.7**	**2.7**	**6.7**	**△ 15.7**
神奈川	**0.0**	**0.2**	**0.9**	**0.9**	**0.7**	**3.2**	**△ 5.9**
山　梨	**0.0**	**0.2**	**0.2**	**0.2**	**0.3**	**0.1**	**△ 1.0**
長　野	**0.0**	**0.3**	**0.5**	**0.2**	**1.0**	**2.5**	**△ 4.5**
東　信	0.0	0.2	0.3	△ 0.1	1.5	1.8	△ 3.7
南　信	0.0	0.4	0.6	0.4	0.9	2.7	△ 5.0
中　信	0.0	0.4	0.6	0.4	1.0	2.9	△ 5.3
北　信	0.0	0.2	0.3	△ 0.1	0.7	2.5	△ 3.6
静　岡	**0.0**	**0.2**	**0.2**	**△ 0.3**	**0.2**	**△ 1.8**	**1.5**
東　部	0.0	0.1	0.0	△ 0.5	△ 0.3	△ 3.3	4.0
西　部	0.0	0.2	0.3	△ 0.2	0.4	△ 0.4	△ 0.3

注：対平均差に用いた平均値は、直近５か年の重量割合の平均値である。

表５　令和３年産水稲玄米のふるい目幅別10ａ当たり収量（10月25日現在）

区　　分	1.70mm 以　上	1.75mm 以　上	1.80mm 以　上	1.85mm 以　上	1.90mm 以　上	2.00mm 以　上
	kg	kg	kg	kg	kg	kg
管　　内	**543**	**538**	**529**	**517**	**499**	**402**
茨　　城	**543**	**538**	**530**	**521**	**504**	**419**
北　　部	542	537	530	522	509	438
鹿　　行	547	542	533	522	503	393
南　　部	540	535	527	517	500	407
西　　部	544	539	531	522	506	425
栃　　木	**549**	**543**	**534**	**520**	**501**	**380**
北　　部	568	562	554	541	523	403
中　　部	547	542	533	520	503	389
南　　部	518	511	500	483	459	327
群　　馬	**…**	**…**	**…**	**…**	**…**	**…**
中　　毛	…	…	…	…	…	…
北　　毛	…	…	…	…	…	…
東　　毛	…	…	…	…	…	…
埼　　玉	**508**	**500**	**489**	**472**	**449**	**325**
東　　部	522	515	504	489	466	341
西　　部	480	470	458	440	414	292
千　　葉	**549**	**545**	**539**	**531**	**517**	**438**
京　　葉	531	527	521	513	499	413
九十九里	562	558	552	543	530	455
南 房 総	536	531	524	516	501	420
東　　京	**405**	**396**	**382**	**362**	**338**	**238**
神 奈 川	**492**	**485**	**470**	**454**	**430**	**318**
山　　梨	**532**	**526**	**516**	**504**	**485**	**395**
長　　野	**603**	**598**	**588**	**579**	**561**	**473**
東　　信	602	597	588	579	556	455
南　　信	601	596	587	578	563	489
中　　信	634	628	618	608	591	508
北　　信	553	548	539	530	513	415
静　　岡	**506**	**502**	**495**	**488**	**474**	**405**
東　　部	505	501	495	488	475	411
西　　部	507	503	496	489	474	401

注：　ふるい目幅別10ａ当たり収量とは、管内計、都県、作柄表示地帯別の10ａ当たり予想収量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

表６　令和３年産水稲玄米のふるい目幅別収穫量（子実用）（10月25日現在）

区　　分	1.70mm 以　上	1.75mm 以　上	1.80mm 以　上	1.85mm 以　上	1.90mm 以　上	2.00mm 以　上
	t	t	t	t	t	t
管　　内	1,457,000	1,442,000	1,419,000	1,389,000	1,339,000	1,078,000
茨　　城	344,800	341,400	336,500	330,700	320,300	265,800
北　　部	88,300	87,500	86,400	85,100	82,900	71,400
鹿　　行	38,200	37,800	37,200	36,500	35,100	27,400
南　　部	124,700	123,500	121,600	119,300	115,300	94,000
西　　部	93,600	92,700	91,400	89,900	87,100	73,100
栃　　木	300,900	297,600	292,500	285,000	274,400	208,500
北　　部	130,600	129,300	127,300	124,500	120,300	92,700
中　　部	103,900	102,900	101,200	98,800	95,500	74,000
南　　部	66,800	65,900	64,500	62,300	59,300	42,200
群　　馬	…	…	…	…	…	…
中　　毛	…	…	…	…	…	…
北　　毛	…	…	…	…	…	…
東　　毛	…	…	…	…	…	…
埼　　玉	152,400	150,000	146,600	141,700	134,600	97,400
東　　部	102,800	101,400	99,300	96,300	91,800	67,200
西　　部	49,400	48,400	47,100	45,300	42,600	30,100
千　　葉	277,800	275,900	272,800	268,600	261,400	221,400
京　　葉	71,700	71,200	70,400	69,300	67,400	55,800
九十九里	148,400	147,400	145,700	143,500	139,900	120,100
南 房 総	57,400	56,900	56,100	55,200	53,600	45,000
東　　京	486	475	458	434	405	285
神 奈 川	14,400	14,200	13,800	13,300	12,600	9,320
山　　梨	25,800	25,500	25,000	24,500	23,500	19,200
長　　野	189,900	188,200	185,200	182,300	176,600	149,100
東　　信	41,400	41,000	40,400	39,800	38,200	31,300
南　　信	49,600	49,200	48,400	47,700	46,500	40,400
中　　信	65,300	64,600	63,600	62,600	60,900	52,400
北　　信	33,700	33,400	32,900	32,300	31,200	25,300
静　　岡	77,400	76,800	75,800	74,600	72,400	61,900
東　　部	36,100	35,800	35,400	34,900	33,900	29,300
西　　部	41,200	40,900	40,300	39,700	38,500	32,600

注：　ふるい目幅別収穫量（子実用）とは、管内計、都県、作柄表示地帯別の予想収穫量にふるい目幅別重量割合を乗じて算出したものである。

表７　令和３年産水稲の作況標本筆の10ａ当たり玄米重の分布状況（10月25日現在）

単位：％

区分		計	100kg未満	100～200	200～300	300～400	400～500	500～600	600～700	700～800	800kg以上
管内	筆数割合	100.0	－	0.1	0.5	5.2	19.4	44.8	26.1	3.7	0.2
	前年値	100.0	－	0.1	0.7	7.1	22.9	43.2	21.9	3.9	0.2
	対前年差（ポイント）	0.0	－	0.0	△ 0.2	△ 1.9	△ 3.5	1.6	4.2	△ 0.2	0.0
茨城	筆数割合	100.0	－	－	0.7	2.1	17.1	54.3	25.4	0.4	－
	前年値	100.0	－	－	0.4	3.2	19.6	60.0	16.1	0.7	－
	対前年差（ポイント）	0.0	－	－	0.3	△ 1.1	△ 2.5	△ 5.7	9.3	△ 0.3	－
栃木	筆数割合	100.0	－	－	－	3.6	16.4	49.3	28.9	1.8	－
	前年値	100.0	－	－	0.4	2.9	21.4	51.0	21.8	2.5	－
	対前年差（ポイント）	0.0	－	－	△ 0.4	0.7	△ 5.0	△ 1.7	7.1	△ 0.7	－
群馬	筆数割合	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
	前年値	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
	対前年差（ポイント）	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
埼玉	筆数割合	100.0	－	－	0.6	9.4	28.3	44.5	16.1	1.1	－
	前年値	100.0	－	－	2.2	13.3	29.4	39.5	15.0	0.6	－
	対前年差（ポイント）	0.0	－	－	△ 1.6	△ 3.9	△ 1.1	5.0	1.1	0.5	－
千葉	筆数割合	100.0	－	－	0.4	1.9	14.3	52.8	30.2	0.4	－
	前年値	100.0	－	0.4	0.4	5.0	19.3	49.5	23.9	1.5	－
	対前年差（ポイント）	0.0	－	△ 0.4	0.0	△ 3.1	△ 5.0	3.3	6.3	△ 1.1	
東京	筆数割合	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
	前年値	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
	対前年差（ポイント）	…	…	…	…	…	…	…	…	…	…
神奈川	筆数割合	100.0	－	1.7	1.7	10.0	33.3	38.3	15.0	－	－
	前年値	100.0	－	－	1.7	16.7	36.7	36.5	6.7	1.7	－
	対前年差（ポイント）	0.0	－	1.7	0.0	△ 6.7	△ 3.4	1.8	8.3	△ 1.7	－
山梨	筆数割合	100.0	－	－	－	11.3	18.8	41.1	25.0	3.8	－
	前年値	100.0	－	－	2.5	8.8	21.3	42.4	17.5	7.5	－
	対前年差（ポイント）	0.0	－	－	△ 2.5	2.5	△ 2.5	△ 1.3	7.5	△ 3.7	－
長野	筆数割合	100.0	－	－	0.4	2.6	10.6	27.7	40.1	17.5	1.1
	前年値	100.0	－	0.4	0.4	2.6	6.9	28.1	44.0	16.1	1.5
	対前年差（ポイント）	0.0	－	△ 0.4	0.0	0.0	3.7	△ 0.4	△ 3.9	1.4	△ 0.4
静岡	筆数割合	100.0			1.3	10.0	28.8	44.9	13.8	0.6	0.6
	前年値	100.0	－	－	0.6	15.0	38.1	36.9	9.4	－	－
	対前年差（ポイント）	0.0	－	－	0.7	△ 5.0	△ 9.3	8.0	4.4	0.6	0.6

注：１　10ａ当たり玄米重は、1.70㎜のふるい目幅で選別された玄米の重量である。
　　２　10月25日現在までに刈取り・調製が終了した作況標本筆のデータにより取りまとめたものであり、次回公表において数値が変動することがある。
　　３　東京都については、作況標本筆を設定していないことから「…」で示した。

図３　令和３年産水稲の作況標本筆の10ａ当たり玄米重の分布状況（10月25日現在、管内）

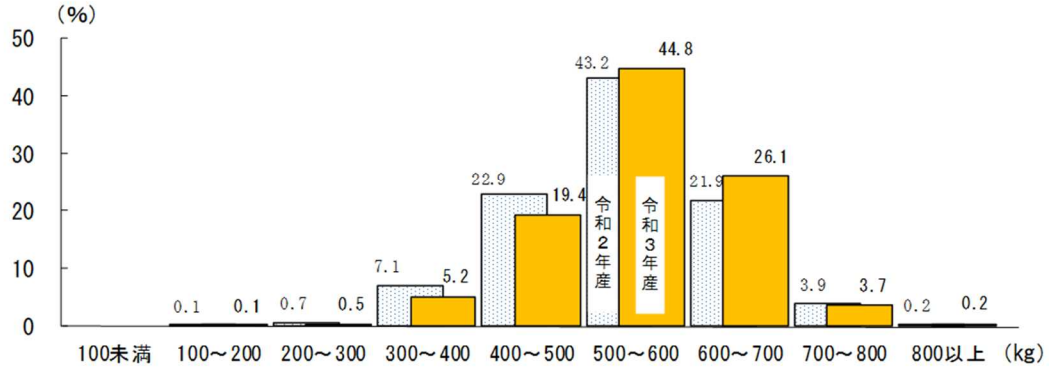


表８　令和３年産水稲の玄米品位の状況（10月25日現在、管内）

単位：％

区分	整粒	未熟粒	乳白粒・腹白粒	被害粒	死米・着色粒
重量割合	66.7	27.3	3.2	6.0	1.2
前年値	65.1	25.2	2.1	9.7	0.8
対前年差（ﾎﾟｲﾝﾄ）	1.6	2.1	1.1	△ 3.7	0.4

注：　10月25日現在までに刈取り・調製が終了した作況基準筆等の刈取試料を穀粒判別器を用いて品位分析したものであり、次回公表において数値が変動することがある。

【統計表】

1　令和３年産水稲の作付面積及び予想収穫量（10月25日現在）

区分	作付面積（子実用） 実数 ①	前年産との比較 対差	前年産との比較 対比	10ａ当たり予想収量 ②	農家等が使用しているふるい目幅で選別 最も多い使用割合の目幅 ③	10ａ当たり予想収量 ④	10ａ当たり平年収量 ⑤	作況指数 ⑥＝④／⑤
	ha	ha	%	kg	mm	kg	kg	
管内 (1)	268,400	△16,700	94	543	…	523	519	101
茨城 (2)	63,500	△ 4,300	94	543	1.85	521	505	103
北部 (3)	16,300	△ 700	96	542	…	522	503	104
鹿行 (4)	6,990	△ 220	97	547	…	522	501	104
南部 (5)	23,000	△ 1,600	93	540	…	517	506	102
西部 (6)	17,200	△ 1,700	91	544	…	522	506	103
栃木 (7)	54,800	△ 4,400	93	549	1.85	520	516	101
北部 (8)	23,000	△ 1,300	95	568	…	541	543	100
中部 (9)	19,000	△ 1,200	94	547	…	520	514	101
南部 (10)	12,900	△ 1,800	88	518	…	483	475	102
群馬 (11)	14,900	△ 600	96	492	1.80	476	482	99
中毛 (12)	6,620	△ 210	97	484	…	466	472	99
北毛 (13)	1,750	△ 20	99	509	…	499	511	98
東毛 (14)	6,520	△ 410	94	495	…	479	484	99
埼玉 (15)	30,000	△ 1,900	94	508	1.80	489	477	103
東部 (16)	19,700	△ 1,400	93	522	…	504	489	103
西部 (17)	10,300	△ 500	95	480	…	458	455	101
千葉 (18)	50,600	△ 4,800	91	549	1.80	539	534	101
京葉 (19)	13,500	△ 1,600	89	531	…	521	513	102
九十九里 (20)	26,400	△ 2,600	91	562	…	552	553	100
南房総 (21)	10,700	△ 600	95	536	…	524	514	102
東京 (22)	120	△ 4	97	405	1.80	394	403	98
神奈川 (23)	2,920	△ 70	98	492	1.80	470	477	99
山梨 (24)	4,850	△ 30	99	532	1.80	516	532	97
長野 (25)	31,500	△ 300	99	603	1.85	579	598	97
東信 (26)	6,870	△ 130	98	602	…	579	611	95
南信 (27)	8,250	△ 60	99	601	…	578	611	95
中信 (28)	10,300	0	100	634	…	608	609	100
北信 (29)	6,100	△ 80	99	553	…	530	548	97
静岡 (30)	15,300	△ 200	99	506	1.80	495	511	97
東部 (31)	7,140	△ 150	98	505	…	495	510	97
西部 (32)	8,130	△ 70	99	507	…	496	512	97

注：１　作付面積（子実用）とは、青刈り面積（飼料用米等を含む。）を除いた面積である。
　　２　主食用作付面積とは、水稲作付面積（青刈り面積を含む。）から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。
　　３　④10ａ当たり予想収量、⑤10ａ当たり平年収量及び⑥作況指数については、都県ごとに過去５か年間に農家が実際に使用したふるい目幅の分布において、 最も多い使用割合の目幅 （茨城県、栃木県及び長野県は1.85mm、その他都県は1.80mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

予想収穫量（子実用）			主食用作付面積	予想収穫量（主食用）	
実数	前年産との比較				
	対差	対比			
⑦＝①×②			⑧	⑨＝⑧×②	
t	t	%	ha	t	
1,457,000	△ 61,000	96	255,200	1,386,000	(1)
344,800	△ 15,200	96	61,400	333,400	(2)
88,300	△ 1,300	99	…	…	(3)
38,200	△ 100	100	…	…	(4)
124,200	△ 6,400	95	…	…	(5)
93,600	△ 7,700	92	…	…	(6)
300,900	△ 17,600	94	50,600	277,800	(7)
130,600	△ 4,500	97	…	…	(8)
103,900	△ 3,800	96	…	…	(9)
66,800	△ 8,800	88	…	…	(10)
73,300	△ 3,600	95	13,000	64,000	(11)
32,000	△ 1,500	96	…	…	(12)
8,910	△ 470	95	…	…	(13)
32,300	△ 1,900	94	…	…	(14)
152,400	△ 5,800	96	28,800	146,300	(15)
102,800	△ 4,400	96	…	…	(16)
49,400	△ 1,500	97	…	…	(17)
277,800	△ 19,700	93	48,100	264,100	(18)
71,700	△ 7,100	91	…	…	(19)
148,400	△ 13,100	92	…	…	(20)
57,400	0	100	…	…	(21)
486	△ 10	98	120	486	(22)
14,400	200	101	2,920	14,400	(23)
25,800	0	100	4,760	25,300	(24)
189,900	△ 2,800	99	30,400	183,300	(25)
41,400	△ 1,400	97	…	…	(26)
49,600	△ 1,700	97	…	…	(27)
65,300	1,700	103	…	…	(28)
33,700	△ 1,300	96	…	…	(29)
77,400	3,300	104	15,200	76,900	(30)
36,100	2,100	106	…	…	(31)
41,200	1,200	103	…	…	(32)

２　令和３年産水稲の刈取期及び刈取済面積割合（10月25日現在）

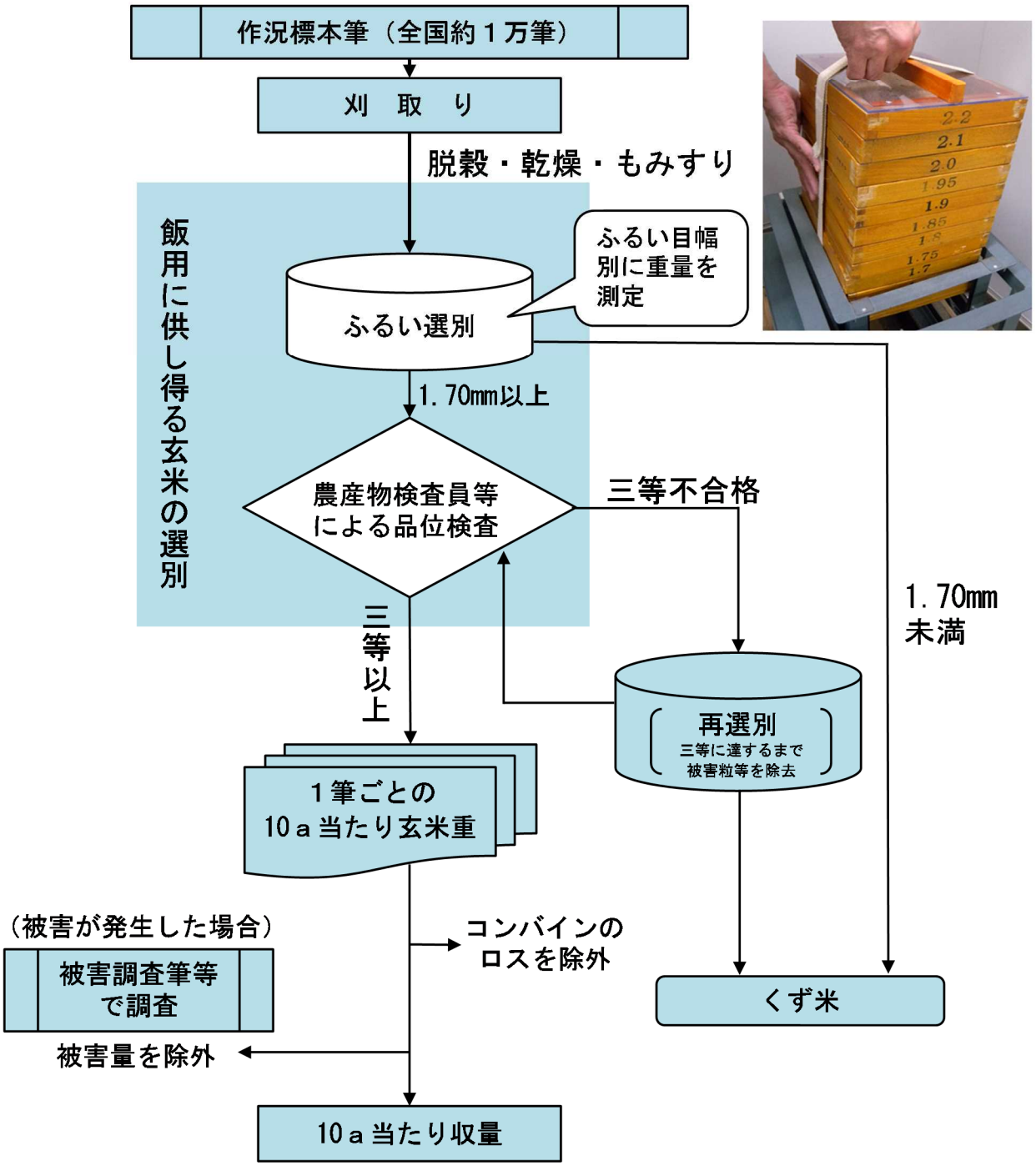
区　　分	刈取期 始期	刈取期 最盛期	刈取期 終期	最盛期の比較 対平年差	最盛期の比較 対前年差	刈取済面積割合
	月　日	月　日	月　日			%
管　　内	…	…	…	…	…	**96**
茨　　城	**8．28**	**9．13**	**9．26**	**並　み**	**並　み**	**100**
北　　部	9．4	9．17	10．2	並　み	並　み	100
鹿　　行	8．19	9．10	9．20	１日遅	１日遅	100
南　　部	8．24	9．11	9．22	並　み	並　み	100
西　　部	8．30	9．13	9．25	並　み	並　み	100
栃　　木	**9．12**	**9．24**	**10．17**	**１日遅**	**２日遅**	**98**
北　　部	9．13	9．23	10．11	１日遅	１日遅	100
中　　部	9．12	9．20	10．2	２日遅	２日遅	100
南　　部	9．12	9．30	…	並　み	２日遅	92
群　　馬	**9．20**	**10．23**	**…**	**２日遅**	**３日遅**	**58**
中　　毛	9．26	…	…	…	…	48
北　　毛	9．20	10．8	10．22	３日遅	４日遅	98
東　　毛	9．13	10．23	…	１日遅	３日遅	57
埼　　玉	**8．31**	**9．28**	**…**	**３日遅**	**３日遅**	**93**
東　　部	8．28	9．26	…	４日遅	４日遅	94
西　　部	9．10	10．3	…	１日遅	２日遅	92
千　　葉	**8．20**	**9．2**	**9．21**	**１日早**	**１日遅**	**100**
京　　葉	8．22	9．11	9．27	３日遅	５日遅	100
九十九里	8．19	8．30	9．19	２日早	１日早	100
南房総	8．19	8．28	9．19	２日早	並　み	100
東　　京	**9．18**	**10．4**	**10．19**	**１日早**	**並　み**	**96**
神奈川	**9．10**	**9．29**	**10．21**	**３日早**	**並　み**	**97**
山　　梨	**9．15**	**10．5**	**…**	**２日遅**	**３日遅**	**90**
長　　野	**9．15**	**10．1**	**10．16**	**１日遅**	**２日遅**	**98**
東　　信	9．14	10．6	10．19	３日早	１日早	97
南　　信	9．14	10．1	10．16	３日遅	３日遅	99
中　　信	9．10	9．24	10．11	３日遅	４日遅	100
北　　信	9．17	10．7	10．19	１日遅	２日遅	96
静　　岡	**8．30**	**9．22**	**10．24**	**１日遅**	**１日遅**	**95**
東　　部	9．7	9．27	…	並　み	並　み	92
西　　部	8．22	9．16	10．22	２日遅	１日遅	97

注：１　刈取期の始期、最盛期、終期とは、刈取済みの面積割合がそれぞれ５％、50％、95％に達した期日である。
　　２　管内の「…」は事実不詳、都県の「…」は10月25日現在において、その期日に達していないことを示す。

【参考１】

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的として、作況標本筆（【参考２】参照）ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程に定める三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測している（下図参照）。

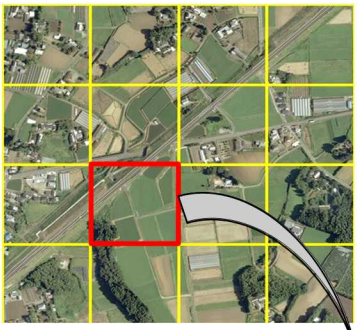


【参考２】

作況標本筆（ふで）とは

収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆（１枚のほ場を筆（ふで）と呼ぶ。）は、各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて次のように各地で選定し（全国で約１万筆）調査している。

全国の全ての土地
（母集団）

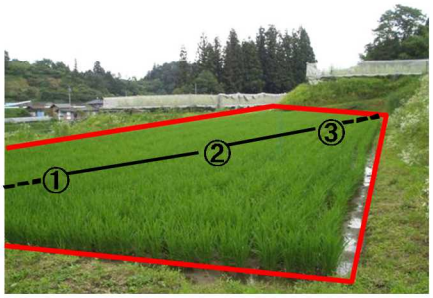


１　全国の全ての土地を200m四方（北海道は、400m四方）に区切って編成した単位区のうち、水田が含まれる単位区を調査母集団とし、その中から、無作為抽出法（人間の恣意を排したくじ引きのような選び方）により「標本単位区」を選んでいる。

標本単位区
（200m四方の土地）

２　標本単位区の中から無作為に１枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としている。

作況標本筆
（全国で約１万筆）



３　各作況標本筆の対角線上の３か所（①、②、③）を実測調査箇所として、調査箇所ごとに１㎡（合計３㎡）分のサンプル採取（坪刈り）を行っている。

【調査の概要】

1　調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び予想収穫量調査として実施したものであり、水稲の作付面積、作柄状況、予想収穫量等を明らかにすることにより、生産対策、需給見通しの策定、経営安定対策、技術指導等の農政推進のための資料とすることを目的としている。

2　調査の対象

(1)　調査は、全国の各都道府県を対象に調査を行っている。

なお、管内は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県及び静岡県の10都県である。

(2)　管内各都県の各作柄表示地帯の包括範囲は以下のとおりである。

都県名	作柄表示地帯	市　　町　　村
茨城県	北　　部	水戸市、日立市、常陸太田市、高萩市、北茨城市、笠間市、ひたちなか市、常陸大宮市、那珂市、小美玉市、茨城町、大洗町、城里町、東海村、大子町
	鹿　　行	鹿嶋市、潮来市、神栖市、行方市、鉾田市
	南　　部	土浦市、石岡市、龍ケ崎市、取手市、牛久市、つくば市、守谷市、稲敷市、かすみがうら市、つくばみらい市、美浦村、阿見町、河内町、利根町
	西　　部	古河市、結城市、下妻市、常総市、筑西市、坂東市、桜川市、八千代町、五霞町、境町
栃木県	北　　部	大田原市、矢板市、那須塩原市、さくら市、那須烏山市、塩谷町、高根沢町、那須町、那珂川町
	中　　部	宇都宮市、鹿沼市、日光市、真岡市、上三川町、益子町、茂木町、市貝町、芳賀町
	南　　部	足利市、栃木市、佐野市、小山市、下野市、壬生町、野木町
群馬県	中　　毛	前橋市、高崎市、伊勢崎市、渋川市、藤岡市、富岡市、安中市、榛東村、吉岡町、上野村、神流町、下仁田町、南牧村、甘楽町、玉村町
	北　　毛	沼田市、中之条町、長野原町、嬬恋村、草津町、高山村、東吾妻町、片品村、川場村、昭和村、みなかみ町
	東　　毛	桐生市、太田市、館林市、みどり市、板倉町、明和町、千代田町、大泉町、邑楽町
埼玉県	東　　部	さいたま市、川口市、行田市、加須市、春日部市、羽生市、鴻巣市、上尾市、草加市、越谷市、蕨市、戸田市、朝霞市、志木市、和光市、新座市、桶川市、久喜市、北本市、八潮市、三郷市、蓮田市、幸手市、吉川市、白岡市、伊奈町、宮代町、杉戸町、松伏町
	西　　部	川越市、熊谷市、秩父市、所沢市、飯能市、本庄市、東松山市、狭山市、深谷市、入間市、富士見市、坂戸市、鶴ヶ島市、日高市、ふじみ野市、三芳町、毛呂山町、越生町、滑川町、嵐山町、小川町、川島町、吉見町、鳩山町、ときがわ町、横瀬町、皆野町、長瀞町、小鹿野町、東秩父村、美里町、神川町、上里町、寄居町
千葉県	京　　葉	千葉市、市川市、船橋市、松戸市、野田市、成田市、佐倉市、習志野市、柏市、市原市、流山市、八千代市、我孫子市、鎌ケ谷市、浦安市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、酒々井町、栄町
	九十九里	銚子市、茂原市、東金市、旭市、匝瑳市、香取市、山武市、大網白里市、神崎町、多古町、東庄町、九十九里町、芝山町、横芝光町、一宮町、睦沢町、長生村、白子町、長柄町、長南町
	南房総	館山市、木更津市、勝浦市、鴨川市、君津市、富津市、袖ケ浦市、南房総市、いすみ市、大多喜町、御宿町、鋸南町
東京都	－	特別区、八王子市、立川市、武蔵野市、三鷹市、青梅市、府中市、昭島市、調布市、町田市、小金井市、小平市、日野市、東村山市、国分寺市、国立市、福生市、狛江市、東大和市、清瀬市、東久留米市、武蔵村山市、多摩市、稲城市、羽村市、あきる野市、西東京市、瑞穂町、日の出町、檜原村、奥多摩町、大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村、小笠原村
神奈川県	－	横浜市、川崎市、相模原市、横須賀市、平塚市、鎌倉市、藤沢市、小田原市、茅ヶ崎市、逗子市、三浦市、秦野市、厚木市、大和市、伊勢原市、海老名市、座間市、南足柄市、綾瀬市、葉山町、寒川町、大磯町、二宮町、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町、愛川町、清川村
山梨県	－	甲府市、富士吉田市、都留市、山梨市、大月市、韮崎市、南アルプス市、北杜市、甲斐市、笛吹市、上野原市、甲州市、中央市、市川三郷町、早川町、身延町、南部町、富士川町、昭和町、道志村、西桂町、忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町、小菅村、丹波山村
長野県	東　　信	上田市、小諸市、佐久市、東御市、小海町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村、佐久穂町、軽井沢町、御代田町、立科町、青木村、長和町
	南　　信	岡谷市、飯田市、諏訪市、伊那市、駒ヶ根市、茅野市、下諏訪町、富士見町、原村、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村
	中　　信	松本市、大町市、塩尻市、安曇野市、上松町、南木曽町、木祖村、王滝村、大桑村、木曽町、麻績村、生坂村、山形村、朝日村、筑北村、池田町、松川村、白馬村、小谷村
	北　　信	長野市、須坂市、中野市、飯山市、千曲市、坂城町、小布施町、高山村、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、信濃町、小川村、飯綱町、栄村

都県名	作柄表示地帯	市　　町　　村
静岡県	東　　部	静岡市、沼津市、熱海市、三島市、富士宮市、伊東市、島田市、富士市、焼津市、藤枝市、御殿場市、下田市、裾野市、伊豆市、伊豆の国市、牧之原市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町、西伊豆町、函南町、清水町、長泉町、小山町、吉田町、川根本町
	西　　部	浜松市、磐田市、掛川市、袋井市、湖西市、御前崎市、菊川市、森町

注：東京都、神奈川県及び山梨県については、作柄表示地帯を設定していない。

(3)　調査対象の選定

ア　作付面積調査

水稲の栽培に供された全ての耕地

イ　予想収穫量調査

水稲が栽培されている耕地

(4)　調査対象数

ア　作付面積調査

標本単位区：8,292単位区

イ　予想収穫量調査

作況標本筆：1,714筆　作況基準筆：62筆

3　調査事項

水稲の作付面積、10ａ当たり予想収量、予想収穫量、穂数・もみ数等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況等

4　調査期日

(1)　作付面積調査：令和３年７月15日現在

(2)　予想収穫量調査：令和３年10月25日現在

5　調査・集計方法

(1)　作付面積調査

ア　母集団の編成

空中写真（衛星画像等）に基づき、全国の全ての土地を隙間なく区分した200ｍ四方（北海道にあっては、400ｍ四方）の格子状の区画のうち、耕地が存在する区画を調査のための「単位区」とし、この単位区（区画内に存する耕地について筆ポリゴン（衛星画像等を基に面積調査用の地理情報システムにより筆（けい畔等で区切られた現況一枚のほ場）ごとの形状に沿って作成した面をいう。）を作成するものをいう。）の集まりを母集団（全国約290万単位区）としている。

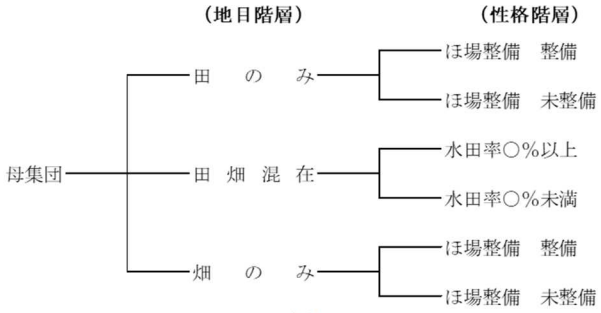
なお、筆ポリゴンには、地目（田又は畑）等の情報が登録されている。

母集団は、ほ場整備、宅地への転用等により生じた現況の変化を反映するため、単位区の情報を補正することにより整備している。

イ　階層分け

調査精度の向上を図るため、母集団を各単位区内の耕地の地目に基づいて地目階層（「田のみ階層」、「田畑混在階層」及び「畑のみ階層」）に分類し、それぞれの地目階層について、ほ場整備の状況、水田率等の指標に基づいて設定した性格の類似した階層（性格階層）に分類している。

階層分け模式図（例）



ウ　標本配分及び抽出

都県別の田畑別耕地面積及び水稲作付面積が的確に把握できるよう階層ごとに調査対象数を配分し、系統抽出法により抽出する。

エ　実査（対地標本実測調査）

抽出した標本単位区内の水稲が作付けされている全ての筆について、１筆ごとに現況地目、耕地の境界及び作付けの状況を確認する。

オ　推定

水稲作付面積の推定においては、都県別に面積調査用の地理情報システムを使用して求積した「標本単位区の田台帳面積の合計」に対する「実査により得られた標本単位区の現況の水稲作付見積り面積の合計」の比率を「母集団（全単位区）の田の台帳面積の合計」に乗じ、これに台帳補正率（田台帳面積に対する実面積の比率）を乗じることにより、全体の面積を推定し、職員又は統計調査員による巡回・見積り及び職員による情報収集により補完している。

$$\text{推定面積} = \frac{\text{標本単位区の現況水稲作付見積り面積合計}}{\text{標本単位区の田台帳面積合計}} \times \text{全単位区の田台帳面積合計} \times \text{台帳補正率}$$

なお、管内の値は、都県別の値を合計して算出した。

カ　その他

遠隔地､離島､市街地等の対地標本実測調査が非効率な地域については、職員による巡回・見積り、情報収集によって把握している。

(2)　予想収穫量調査

ア　母集団

(1)のイにより、「田のみ階層」及び「田畑混在階層」の地目階層に分類される単位区を母集団としている。

イ　階層分け

都県別に地域行政上必要な水稲の作柄を表示する区域として、水稲の生産力（地形、気象、栽培品種等）により分割した区域を「作柄表示地帯」として設定し、この作柄表示地帯ごとに収量の高低、年次変動、収量に影響する条件等を指標とした階層分けを行っている。

ウ　標本配分及び抽出

都県別の調査対象数を階層別に水稲の作付面積に10ａ当たり収量の標準偏差を乗じた結果に比例して配分する。

階層別に配分された調査対象数を単位区の水稲作付面積(田台帳面積)に比例した確率で抽出する確率比例抽出法により標本単位区を抽出する。抽出された標本単位区内で、水稲が作付けされている筆から１筆を無作為に選定し、作況標本筆（実測調査を行う筆）とする。

エ　作況標本筆の実測

作況標本筆の対角線上の３か所を系統抽出法により調査箇所に選定し、株数、穂数、もみ数等の実測調査を行う。

オ　10ａ当たり玄米重の算定

(ｱ)　予想収穫量調査（調査期日において収穫期を迎えていないもの）

刈取りが行われる前に調査を実施するため、穂数、１穂当たりもみ数及び千もみ当たり収量のうち実測可能な項目については実測値、実測が不可能な項目については過去の気象データ、実測データ等を基に作成した予測式により算定した推定値を用いることとし、これらの数値の積により10ａ当たり玄米重を予測する。

(ｲ)　収穫量調査（調査期日において収穫期を迎えているもの）

各作況標本筆について、一定株数（１㎡分×３か所の株数）の稲を刈り取り、脱穀・乾燥・もみすりを行った後に、飯用に供し得る玄米（農産物規格規程（平成13年２月28日農林水産省告示第244 号）に定める三等以上の品位を有し、かつ、粒厚が1.70㎜以上であるもの）となるように選別し、10ａ当たり玄米重を決定する。

カ　10ａ当たり収量の推定

各作況標本筆の10ａ当たり玄米重の平均を基に、都県別の10ａ当たり玄米重平均値を推定し、これにコンバインのロス率（コンバインを使用して収穫する際に発生する収穫ロス）や被害データ等を加味して検討を行い、都県別の10ａ当たり収量を推定する。

さらに、作況基準筆（10ａ当たり収量を巡回・見積りにより把握する際の基準とするものとして有意に選定した筆をいう。）の実測結果及び特異な被害が発生した際に設置する被害調査筆の実測結果を基準とした巡回・見積り並びに情報収集による作柄及び被害の見積りによって推定値を補完する。

キ　収穫量及び被害量

作況標本筆の刈取り調査結果から推定した10ａ当たり収量に作付面積を乗じて収穫量を求める。

被害量は、農作物に被害が発生した後、生育段階に合わせて被害の状況を巡回・見積りで把握する。また、特異な被害が発生した場合は、被害調査筆を設置して調査を実施し把握する。

６　用語の解説

(1)　「青刈り」とは、子実の生産以前に刈り取られて飼肥料用などとして用いられるもの（ＷＣＳ用稲、わら専用稲等を含む。）のほか、飼料用米等を指す。

(2)　「作況指数」とは、10ａ当たり平年収量に対する10ａ当たり予想収量の比率である。

なお、平成26年産以前の作況指数は1.70㎜のふるい目幅で選別された玄米を基に算出し、平成27年産から令和元年産までの作況指数は、管内で、過去５か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、大きいものから数えて９割を占めるまでの目幅（1.80㎜）以上に選別された玄米を基に算出していた。令和２年産以降の作況指数は、都県ごとに、過去５か年間に農家等が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅以上に選別された玄米を基に算出した数値である。

令和３年産の作況指数の算出に用いるふるい目幅（管内）

農家等使用目幅	都　　県
1.85㎜	茨城県　栃木県　長野県
1.80㎜	群馬県　埼玉県　千葉県　東京都　神奈川県　山梨県　静岡県

(3)　「10ａ当たり平年収量」とは、水稲の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合いや作付変動等を考慮し、実収量のすう勢を基に作成したその年に予想される10ａ当たり収量をいう。

7　利用上の注意

(1)　統計数値については、次表の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原　　数		7桁以上 (100万)	6桁 (10万)	5桁 (1万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100)
四捨五入する桁数（下から）		3桁	2桁		1桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値（統計数値）	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

(2)　表中に用いた記号は次のとおりである。

「０」、「0.0」：増減のないもの
「…」　　：事実不詳又は調査を欠くもの
「△」　　：負数又は減少したもの

(3)　この統計表に記載された数値等を他に転載する場合は、「作物統計調査令和３年産水稲の作付面積及び10月25日現在の予想収穫量（管内）」による旨を記載してください。

8　その他

(1)　この資料のうち、作付面積は、概数値である。

確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（令和４年２月予定）するとともに、その後刊行する「令和３年耕地及び作付面積統計」に掲載する。

なお、確定した詳細な数値をホームページに掲載した後の正誤情報は、ホームページでお知らせする。

(2)　本調査（10月25日現在）は、収穫を終えた地域では刈取り実測により行ったが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定する方法により行った。したがって、今後の気象条件等により作柄は変動することがある。

なお、本調査についての確定値は、「作物統計調査令和３年産水陸稲の収穫量（管内）」として令和３年12月上旬に公表する予定である。

【ホームページ掲載案内】

○　各種農林水産統計調査結果は、関東農政局ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 https://www.maff.go.jp/kanto/to_jyo/ 】

お問合せ先

◎本統計調査結果について

《関東農政局全体》

	関東農政局　統計部 生産流通消費統計課	電　話：048-740-0594 ＦＡＸ：048-740-5923
《茨 城 県》	関東農政局　茨城県拠点　統計チーム	電　話：029-231-2266 ＦＡＸ：029-227-1535
《栃 木 県》	関東農政局　栃木県拠点　統計チーム	電　話：028-633-3106 ＦＡＸ：028-633-9271
《群 馬 県》	関東農政局　群馬県拠点　統計チーム	電　話：027-221-1173 ＦＡＸ：027-221-1174
《埼 玉 県》	関東農政局　統計部　統計調査チーム	電　話：048-740-1016 ＦＡＸ：048-740-5923
《千 葉 県》	関東農政局　千葉県拠点　統計チーム	電　話：043-253-9212 ＦＡＸ：043-253-9216
《東 京 都》	関東農政局　東京都拠点　統計チーム	電　話：03-5144-5261 ＦＡＸ：03-5144-5279
《神奈川県》	関東農政局　神奈川県拠点　統計チーム	電　話：045-211-7174 ＦＡＸ：045-212-4680
《山 梨 県》	関東農政局　山梨県拠点　統計チーム	電　話：055-254-6019 ＦＡＸ：055-254-6059
《長 野 県》	関東農政局　長野県拠点　統計チーム	電　話：026-234-5577 ＦＡＸ：026-235-1397
《静 岡 県》	関東農政局　静岡県拠点　統計チーム	電　話：054-246-6123 ＦＡＸ：054-246-6122

◎農林水産統計全般について

関東農政局　統計部　統計企画課	電　話：048-740-0058 ＦＡＸ：048-740-5923

政府統計

政府統計の総合窓口
（e-Stat）
https://www.e-stat.go.jp/